

令和5年度 学校マネジメントシート 最終報告

学校名 (三重県立稲葉特別支援学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校	○児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育活動を推進し、能力や可能性を伸ばし、社会自立に必要な力を育成する。
(2)	育みたい児童生徒像 ○なかよく（コミュニケーション）：自他の心情や命を大切にする心もち、 ○あかるく（意欲）：意欲を持って物事に向かう力もち、 ○たくましく（心身）：忍耐力と健やかな体をもつ児童生徒
	ありたい教職員像 ○児童生徒への深い愛情と確かな人権感覚を持ち、率先して取り組む活力ある教員。 ○専門性の向上と自己研鑽に努め、仲間と新しい教育実践に挑戦する教員。 ○組織の課題を発見し、新たな伝統・システム作りに取り組む創造性のある教員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈児童生徒〉卒業後に社会の一員として各子どもに応じた自立できる確かな力を育ててほしい。</p> <p>〈保護者〉児童生徒にとって、安心安全に学べる場所であってほしい。子どもの教育的ニーズに応じた教育を実践し、生きる力を伸ばしてほしい。日頃から教職員の資質向上に取り組んでほしい。（障がい理解、保護者や児童生徒の気持ちの理解）</p> <p>〈センター的機能を必要とする機関〉特別な支援を必要とする子どもたちへの指導について、専門的な支援をしてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈関係機関〉子どもたちや家庭の課題、あるいは子どもたちの進路について、学校と緊密に連携しながら取り組み、解決を図りたい。</p> <p>〈地域〉特別な支援を必要とする子どもたちへの指導について、専門的・具体的な指導・助言を行ってほしい。</p> <p>地域の中の学校として、地域とのつながりを大切にしてほしい。</p>	<p>〈関係機関〉ネットワークを通じて、子どもや保護者の生活を各機関それぞれの専門性を発揮し、支えてほしい。卒業後の進路先としてニーズにあった生活環境や職場環境を整備いただきたい。</p> <p>〈地域〉特別な支援を必要とする子どもたちが生涯にわたって暮らしやすい環境になるように、適切な指導及び必要な支援の充実に取り組んでほしい。本校の子どもたちへの理解と協力をお願いすると共に、本校との連携を図ってほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○国・県の動向を踏まえながら、学校の実状に合った感染対策を検討してほしい。</p> <p>○小学部から高等部、そして卒業後の社会自立に向けた更なる取組や社会環境や児童生徒の多様化に対応した教育活動の質を向上させる取組など、学校として教育の質をより一層高めることを目指してほしい。</p> <p>○ICTを活用した教育の在り方への研究・実践や連絡システムの構築を期待している。</p> <p>○本年度の取組の方向性の延長として、さらなる「安心安全な学校づくり」への校内体制の整備を進めてほしい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ●感染防止対策については国・県の動向を踏まえながら実施している。 ●キャリア教育や学びの連続性を重視した様々な活動を、今後もより一層進めることが求められている。 ●社会環境の変化や児童生徒の多様化を受け、効果的なアセスメント等による児童生徒の実態把握、教育内容や時間の配分の不断の見直し、教育課程の実施状況に基づく改善などを通じて、教育活動の質を向上させることが急務である。 ●ICTを活用した教育の在り方については、さらなる研究・実践が必要である。 ●児童生徒の健康についても新しい取組が求められている。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ●急激な教育環境の変化に対応できる教職員研修や校内組織等の環境整備が求められる。 ●ICTを活用した連絡システムについて導入しているが、ランニングコストや担当者の業務量等の課題を整理し、よりよいシステム構築を行う必要がある。 ●児童生徒の安全に関わる事案が発生し、効果的な対策を講じ再発防止に努めているが、新たに高等部棟も完成し、より一層「安心安全な学校づくり」が推進できるよう、校内体制の整備が急務である。 ●働き方改革については、一部教員の時間外在校時間が多くなる傾向がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	①生活を豊かにするために必要な知識・技能を身につけるとともに、それらを統合し、よりよく問題解決をする力を身につける。 ②人とのかかわりを通して、本人の意思や願いを表明・発信する豊かな表現力や共感する態度を身につける。 ③自立と社会参加を目指して、主体的に生活に向かう力を身につける。
学校運営等	A) 障がいの多様化、学習のデジタル化を踏まえた教職員一人ひとりの専門性の向上 B) 誰一人取り残さない教育の実現に向けたセンター的機能と安心・安全のための切れ目のない支援の充実に向けたネットワークの形成 C) 誰もが自信と誇りを持ち業務にあたる「チーム稲葉」としての体制・組織づくり

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組

「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
生活を豊かにするために必要な知識・技能を身につけるとともに、それらを統合し、よりよく問題解決をする力を身につける。	小学部から高等部までの12年間を見据えたカリキュラム・マネジメントやキャリア教育を推進し、教育活動や日々の授業の充実を図る。 【活動指標】 (小学部) ・ICT機器を活用する方法を工夫したり、活用する教科を増やしたりして、意欲的に授業に参加させる。 (中学部) ・常時、個々の生徒の課題と評価を共有し、教育活動を行う。 ・活動の見通しを持ったり、活動を振り返ったりしながら、現在の生活と将来の生活を関連づけた指導を行う。 (高等部) ・授業や行事で、ICT機器を活用してデジタル環境への理解が深まる指導を行う。 ・学校生活の決まりやルールを守りながら、社会生活を意識した言動を身に付けさせる。 (教務・情報部) ・新学習指導要領に対応した教育課程の編成をする。教育課程の検討や見直しを行う。 【成果指標】 ・教育活動・支援に満足している保護者の割合 80%以上	(小学部) ・学部研修で、アプリの活用の研修を行った。朝や帰りの会、課題、授業などでiPadやタッチペンなどのICT機器を活用した。 (中学部) ・個別の指導計画やキャリア・パスポートを基に、指導者間や保護者と情報を共有した。 (高等部) ・授業や行事等のプレゼンの際、ICT機器を積極的に活用した。 (教務・情報部) ・教育課程検討委員会において、来年度教育課程の見直しを行った。 ・教育活動・支援に満足している保護者の割合 96.5%	◎
人とのかかわりを通して、本人の意思や願いを表明・発信する豊かな表現力や共感する態度を身につける。	具体的な指導や社会体験により、社会性を身に付けさせるとともに、自他の命を大切に、自尊感情を育む。 【活動指標】 (小学部) ・教員からのあいさつや言葉がけに対してあいさつや返答ができるよう指導を行う。 ・要求、応答、思いなどを伝えるために、絵カードやICT機器を使って表現させる。 (中学部) ・日常行動を自己評価や他者評価を合わせて振り返り、自ら段階的な具体的目標設定することで、自己有用感や自尊感情の向上を図る。 ・あいさつなど人との関わりや、状況の変化などに応じて適切な行動とれるよう指導する。 (高等部)	(小学部) ・自分から挨拶したり、教員からの言葉がけで、挨拶やお辞儀をしたりする場面が増えた。 ・絵カードを使って、欲しい物や行きたい場所を要求できるようになってきた。 (中学部) ・挨拶や人との関わりについて、自ら振り返ることができるようになってきた。 (高等部) ・目標を設定し、学期末に振り返りを行うことで、自分自身を見つめなおすことができた。	

	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介シートやキャリア・パスポート等の作成を通して、自己の願いや希望を表す指導を行う。 ・校内実習や現場実習を通して、実習に向かう気持ちや実習後の感謝等を表現する機会や文章作成の指導を行う。 <p>(生活指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会活動を通して、集団の前で自分の気持ちを発表する機会を設ける。 <p>(人権教育・研修部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権ガイドライン」を教材として授業等で活用し、人権問題に対する正しい認識を高め、命を大切に作る心を育てる。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での学びで「達成感」を感じている児童生徒の割合 80%以上 ・挨拶ができた児童生徒、小 50%、中 70%、高 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等の体験を通じて、主体的に取り組む気持ちが増えた。 <p>(生活指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会、学部集会、学校祭等で自分の気持ちを発表する場を設けた。 <p>(人権教育・研修部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権ガイドライン」を参考にし、「人権だより」を配付し、啓発活動を実施した。 ・人権自己チェックを7月に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・学びでの「達成感」割合 88.2% ・「挨拶」ができた割合 小 96.3%、中 100%、高 100% 	
<p>自立と社会参加を目指して、主体的に生活に向かう力を身につける。</p>	<p>児童生徒の「生きる力」の基盤となる体力作りを推進するとともに、ICT機器も活用しながら、言語能力、情報活用能力や問題発見・解決能力等の社会に参画する力を育む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(小学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・からだタイムでは、リトミックを中心に基礎体力づくりを行う。 ・簡単な手伝いやクラスの仕事をさせる。 <p>(中学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日朝の運動を実施し、体力の向上を図る。 ・情報手段を活用するために必要な環境を整え、学習活動の充実を図る。 ・情報機器の初歩的な操作の仕方を指導し、情報機器を活用した体験などを他者に伝えられるように指導する。 <p>(高等部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなば園周を毎日3周走る。 ・クラスの役割や係りの仕事に主体的に取り組むよう指導する。 <p>(危機管理・総務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部とも食に関する授業を行う。 ・各学部、授業などで保健指導を行う。 ・健康相談を実施し、校医や専門機関との連携をはかり、個々に応じた問題解決に努める。 <p>(進路指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との情報共有を適宜行う。個別の移行支援計画を作成し、卒業前に移行支援会議を行う。 ・一般就労希望者対象の企業見学会を実施する。 <p>(支援部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育プログラムに基づく個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成する。 ・はっぴいのーと・パーソナルファイルの活用促進、支援ツールの普及啓発を行い、社会で主体的に生活する児童生徒の指導に生かす。 	<p>(小学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に2回以上は、からだタイムのリトミックを行い、基礎体力作りをした。 ・日直、朝や帰りの会での日付や天気の発表など、クラスの簡単な係をすることができた。 <p>(中学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日のリズムを整え、体力を向上させることを目指して朝の運動を継続実施した。 ・情報機器活用の機会を保障し、初歩的操作ができるようになった。 <p>(高等部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなば園周での持久走に継続して取り組めた。(熱中症アラートのため7月は歩行となった。) <p>(危機管理・総務部)</p> <p>【保健に関する指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に歯と口の健康づくりについての保健指導を11回実施した。 ・精神科校医に來校してもらい、緊急的に健康相談を実施した。 <p>【食に関する指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスやグループ毎に栄養教諭による食に関する授業を計17回実施した。 <p>(進路指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関とは4月の進路懇談会や高等部3年生の進路に関わることで情報共有できた。 ・一般就労希望者対象の企業見学会を10月に実施した。現場実習への動機づけになった。 <p>(支援部)</p>	

	<p>(生活指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学式、卒業式等の儀式的行事に参加することで、将来を考える機会を設ける。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「運動が楽しい。」と回答する児童生徒の割合 70%以上 ・就職を希望する生徒の就職率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に作成することができた。 ・5月のPTA総会で、はっぴいの一との説明会を実施した。13名の参加者があった。支援ツールを持っていない児童生徒については、今後パーソナルファイルを配付の予定である。 <p>(生活指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学式では在校生はオンラインで視聴した。 <ul style="list-style-type: none"> ・「運動が楽しい」割合 90.5% ・就職希望の就職率(高3) 100%
--	--	--

改善課題

○子どもたちの自己肯定感を高め、信頼関係に基づく教育実践を今後も継続するとともに、コロナ禍で途絶えた社会体験や活動について、社会に開かれた教育課程の充実の視点から新たに構築してことが求められる。

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組

「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>障がいの多様化、学習のデジタル化を踏まえた教職員一人ひとりの専門性の向上。</p>	<p>専門性を向上させる年間を通じた計画的で満足度の高い研修会を実施するとともに、コンプライアンス研修・危機管理研修などを実施し、教職員一人ひとりの資質を向上させる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(進路指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員・保護者対象の研修会を開催する。 <p>(支援部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援研修会の実施。 <p>(教務・情報部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部でICTに関する研修を実施する。 <p>(人権教育・研修部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間に行う研修を精選し、必要な研修を適切に行う。 ・特別支援学校の教員として専門性を高めるために、学部の枠を外してグループを作り、人的交流やチーム力を高める研修を年3回実施する。 ・コンプライアンス研修や危機対応訓練を実施する。 ・学部のニーズに応じた研修を実施する。 ・学校全体のニーズに応じた全体研修会を年1回以上実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の向上のための研修を受講した教職員 100% ・コンプライアンスに関する目標を達成した教職員 100% 	<p>(進路指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員対象に7月に「社会に出て働くということ」をテーマに研修会を実施した。保護者対象に10月に卒業生の保護者を招き進路研修会を実施した。 <p>(支援部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月25日に、地域支援研修会を実施した。独立行政法人国立病院機構 榊原病院 村田昌彦院長による「特性のある子どものアンガーマネジメント」と題する講演会を開催した。モニタリングや行動分析、行動療法等について研修した。 <p>(教務・情報部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部で、ICT研修を行った。 <p>(人権教育・研修部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、実施する研修の計画を集約して全体に周知して進めた。 ・新・転入者に向けてに学校紹介を主とするフレッシュャーズ研修を実施した。 ・テーマ研修は、7月28日に実施。学部を超えて集まり意見交換をした。 ・コンプライアンス研修を7月26日に実施した。外部講師による「学校における児童生徒間の性暴力対応支援 	

		<p>ハンドブック」の活用研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏期休業中に夏期専門研修として、障がい者年金制度や、リトミックについて校内職員を講師として実施した。 ・各学部において必要な研修を計画し実施した。 <p>・専門性向上研修受講 100%</p> <p>・コンプライアンス目標達成 100%</p>	
<p>誰一人取り残さない教育の実現に向けたセンター的機能と安心・安全のための切れ目のない支援の充実に向けたネットワークの形成。</p>	<p>支援会議の適時な開催等による児童生徒の支援体制の充実や、積極的な情報発信、ニーズに応じたセンター的機能の向上を図る。また、児童生徒の危機対応、学校防災・施設安全対策等を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(危機管理・総務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時・医療的ケア緊急対応訓練 ・避難訓練(地震、火災、抜き打ち) ・不審者対応訓練、失踪時対策訓練 ・スクールバス避難訓練 ・発作時の対応講習会等の実施 ・個人情報取扱い注意喚起 ・ヒヤリハットの情報共有 ・防災ノートの活用促進 <p>(支援部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援研修会の実施 ・教育支援事業案内の配布 ・支援会議体制の確立 ・「INABA TIMES」の発行 <p>(事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害用備蓄物資の有効活用を図りながら定期的に更新を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席日数 30 日以上の児童生徒に関する支援会議開催率 100% ・学校の危機管理・防災対策への保護者満足度 70%以上 	<p>(危機管理・総務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「プログラム」講習会の開催 (8/1) ・避難訓練「地震」の実施 ・避難訓練「火災」の実施 (9/13) ・不審者対応講習会の実施 (11/17) ・医ケア緊急対応訓練 2 回実施 ・緊急時対応訓練「てんかん」をプログラムの活用訓練も兼ねて実施 (8/1) ・4 月職員会議で個人情報誤配付の注意喚起 ・ヒヤリハット 1 学期分の情報共有 ・防災ノートで事前指導をして起震車体験を実施 ・防災ノートで事前指導をして、避難訓練「地震」の実施 (抜き打ち、1 月) ・ヒヤリハット 2 学期分の情報共有 (1 月) ・1 年間の各分掌の危機管理に関する取り組みのまとめと情報共有 (3 月) <p>(支援部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援研修会を 8 月 25 日に実施した。 ・職員会議で、校内支援会議について、説明した。 ・支援会議について、適宜実施中である。 ・「INABA TIMES」を 5 月に発行し、保護者に情報提供をした。 <p>(事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期限が迫っている保存食、保存水を活用。年度末までに補充した。 <p>・支援会議開催率 100%</p> <p>・危機管理・防災保護者満足度 95.7%</p>	◎

<p>誰もが自信と誇りを持ち業務にあたる「チーム稲葉」としての体制・組織づくり。</p>	<p>教職員一人ひとりが持てる力を発揮し、不祥事を根絶することにより、活力ある「チーム稲葉」としての組織づくりを進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合 80%以上 ・学部間人事交流の定着化。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人当たりの月平均時間外労働時間 10時間以下 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・年360時間を超える時間外労働者の人数 0人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 4月～12月 10日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校職員割合 84.7% ・休養日設定部活動割合 100% ・60分以内終了会議割合 73.6% <p>半期（4～12月実績） 一人当たりの月平均時間外労働時間 6.5時間 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 16人。 年360時間を超える時間外労働者の人数 3人 （参考 180時間超7人） 一人当たりの年間休暇取得日数 16.3日</p>	※
--	---	---	---

改善課題

- 教育課題の多様化・高度化を踏まえ、OJTによる専門性の向上や成果を実感できるよう、「チーム稲葉」として教育実践の組織的な継承ができる仕組みづくりが必要である。
- 多様な職種 of 教職員が同じ目標に向かって協力できるための情報共有が求められている。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍以降の社会体験や活動について充実した教育を進めてほしい。 ○様々な研修を通して教職員の専門性を高めてほしい。 ○卒業後の社会自立に向け、生活指導や安全指導に取り組んでほしい。 ○教職員の時間外労働縮減や定時退校の更なる取組を行ってほしい。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○社会に開かれた教育課程を展開し、社会自立にも繋がる体験活動の充実や地域・関係機関と連携した教育活動を進めていく。 ○ICTやデジタルデバイスの実践を深化させ、多様な生徒に対応した効果的な教育方法の開発を行う。 ○12年間の学びの連続性のある目標設定により日々の授業の充実を図る。 ○児童生徒の安全や健康に対する指導については、今後も継続した取り組みを行う。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○専門性を携えた質の高い教育実践の組織的な継承を進めていくための、研修計画と組織的位置づけを実施する。 ○「チーム稲葉」として、児童生徒への支援等について多様な職種が協力できる体制づくりを構築する。 ○「安心安全な学校づくり」に向け組織・施設の危機対応能力を向上させる。 ○働き方改革やジェンダーギャップの解消に向け、教職員の意識の醸成を進める。